

域学連携による学修サイクルの実践



実施体制：池畑 義人、杉浦 嘉雄、園田 一則、吉村 充功（工学部 建築学科）

実施フィールド：豊後大野市大野町土師地区

連携機関：土師振興協議会、NPO法人ABC野外教育センター

環境・地域創生コースの科目群

概要

建築学科では地域の課題を解決できる人材を育成するために環境・地域創生コースを設置し、豊後大野市大野町土師地区をフィールドとした科目群を展開している。この科目群において1年次に開講するプロジェクト1などの導入科目は、環境・地域創生コースのコア科目であるとともに、建築学科の専門基礎科目としても機能するようにカリキュラム設計がなされている。

これまでは知識の積み上げ型のカリキュラム設計がなされてきたが、環境・地域創生コースでは『体験交流活動による動機付け』→『知識の修得・定着』→『課題解決型学修』という学修サイクルを導入している。このサイクルにより、学生が自分に不足している知識・技能を自覚し、再び体験交流活動に参加することで、地域で活躍できる幅広い能力を身につけることを目指している。

内容

1年次には通年科目のプロジェクト1で日帰り、1泊2日の合宿形式を含めた体験交流活動を実施している。この科目では単に体験活動を実施するのではなく、学内において事前に研修を実施している。研修の内容は、野外で活動における安全管理、グループで活動の意味づけなどである。また体験活動を実施する前には学生が個々で活動における目標を設定し、その目標を確認するために教員との面談を実施している。また、体験活動の内容を補完するために教養基礎の必修科目である大分学・大分楽との関連づけ、森里海連環学と地球的課題の履修動奨を行っている。さらに人間力育成センターにおいても連携した課外活動プログラムが用意されている。

2年次には、知識の獲得を目指してデータ解析演習、流域生態論、環境計画論を開講している。これらの科目で知識の修得をはかるとともに、プロジェクト2などの体験交流活動を実施し、定着した知識の確認もできるようになっている。

3年次には地域再生論で引き続き知識の修得をはかるとともに、研究ゼミナールA・B および環境・地域創造演習において課題解決型学修を実施している。その成果を4年次の卒業研究につなげることで、4年間の学修が完成する。

この一連のサイクルの過程において、プロジェクト系の科目では『計画→事前調査→体験→振り返り』のサイクルを組み込むことを意識している。

今後の展開

受講生からは『自分たちのことを頼りにしてくれて、もっと地域のために役立ちたい』、『人と協力することの大切さを知った。協調性の成長を実感できた』などの意見が出された。昨年度は、このカリキュラムを受講した学生が初めて卒業研究に取り組むこととなったが、例年に比べて地域の課題解決に取り組むテーマが飛躍的に増加し、学生の意識の変化を感じることができた。

この取り組みを他学科に波及させるためには、学内における他のプロジェクトとの交流や連携・融合を推進する必要があると考え、協議を進めている。

科目名	開講学年	属性	
大分学・大分楽	1年	教養基礎	必修
森里海連環学	1年	教養基礎	選択
プロジェクト1	1年	専門	選択
正課外活動	-	-	-
データ解析演習	2年	専門	選択
流域生態論	2年	専門	選択
環境計画論	2年	専門	選択
地域再生論	3年	専門	必修
環境・地域創造演習	3年	専門	選択
建設マネジメント演習	3年	専門	選択
研究ゼミナールA/B	3年	専門	選択
卒業研究	4年	専門	必修

体験交流活動
知識の修得
課題解決型学修



プロジェクト1における事前研修



プロジェクト1における農業体験活動



環境・地域創造演習における発表会

